

# 東北の医療物資・物流ハブ、岩手・宮城の 2 拠点整備から半年 ドライバー不足「2024 年問題」、災害対応で成果

～在庫の配置最適化や岩手の「透析」2 カ月供給可能に～

医療機器商社「丸木医科器械株式会社」※1（本社・宮城県仙台市、代表取締役社長・佐藤 英輔、以下当社）は 5 月 31 日、東北全域への医療材料安定供給を目的に進めてきた「医療材料供給 HUB 構想（マルプロジェクトプロジェクト）」を巡り、岩手・宮城の 2 拠点※2 の整備が完成して半年の節目に合わせて成果をまとめましたので発表いたします。

これまで、時間外労働の規制でドライバー不足となる「物流 2024 年問題」への対応とともに、災害時にも地域医療を止めない供給体制の構築に取り組んできました。その結果、拠点間の連携による柔軟な供給対応や、在庫の配置最適化による物流の効率化が前進。災害時に、岩手県内で使用される透析医療材料について約 2 カ月分の供給が可能な体制が実現しました。



東北北部の医療材料供給を担う物流拠点「マルプロジェクト北東北」外観  
月に「マルプロジェクト南東北」（宮城県）を開設して東北 6 県を網羅する物流網を構築し、4 月に半年が経過しました。

## 東日本大震災の経験から進めた「医療材料供給 HUB 構想」

東日本大震災では、物流網の寸断や医療物資不足が医療現場へ大きな影響を及ぼしました。この経験から当社は、災害時にも医療材料を届け続ける物流体制の必要性を強く認識しています。

さらに近年は、ドライバー不足や長距離輸送制限への対応が課題です。広域に医療機関が点在する東北エリアでは、従来の配送体制だけでは安定供給の維持が難しくなることが見込まれています。

こうした背景を踏まえ、当社はマルプロジェクトを推進。2024 年 9 月に「マルプロジェクト北東北」（岩手県）、2025 年 11

## ■運用開始後の主な取り組み※3■

### ① 拠点間連携による柔軟な供給対応

拠点間で在庫を相互に融通できる体制を整備したことで、急な需要変動や緊急時にも迅速な供給対応が可能となりました。

### ② 在庫配置最適化による安定供給

各拠点の役割分担や在庫配置を見直し、在庫偏在の解消と物流効率化を推進。必要な医療材料を必要な地域へ供給しやすい体制を構築しています。

### ③ 災害対応を見据えた備蓄体制強化

物流拠点への集約管理により、災害時を想定した備蓄体制を強化しています。医療用手袋やマスクなど主要医療物資約 2 カ月分を常時備蓄。加えて岩手県内の透析治療に必要な医療材料についても、約 2 カ月分の供給体制を整備しています。

## 「地域医療を止めない」

丸木医科器械株式会社

常務取締役

藤野雅美のコメント



物流の 2024 年問題や災害リスクなど、医療材料供給を取り巻く環境が変化する中でも、地域医療を止めないことが私たちの使命です。マルプロジェクトを通じ、平時・有事を問わず安定供給できる体制強化を進め、東北・岩手の医療を支えてまいります。

## ◇会社概要◇丸木医科器械株式会社 (<https://maruki-ms.co.jp/>)

住所：宮城県仙台市太白区西中田 3-20-7 創業：1965 年 2 月

事業内容：医療機器・医療材料の販売および保守サービス。病院と医療機器メーカーをつなぐ医療機器商社として、地域医療を支える。

## ※1 丸木医科器械株式会社について

【本社】宮城県仙台市太白区西中田 3-20-7

【電話】本社代表：022-242-3331

【代表】代表取締役会長：渡辺津賀雄、代表取締役社長：佐藤英輔

【事業内容】病院、医院の設備関係および医療器械器具の販売・医薬品の販売

【拠点】仙台・山形・岩手・水沢・八戸・気仙沼



丸木医科器械株式会社は、東北地方を中心に医療機関へ医療機器および医療材料を供給する医療機器卸企業です。1965年の創業以来、地域医療の発展と安定した医療体制の構築に貢献してきました。

医療機関とメーカーをつなぐ役割を担いながら、迅速かつ確実な供給体制の構築と、医療現場のニーズに応じたサービス提供を強みとしています。その先には常に患者様がいるという考えのもと、地域医療への貢献を使命として事業に取り組んでいます。

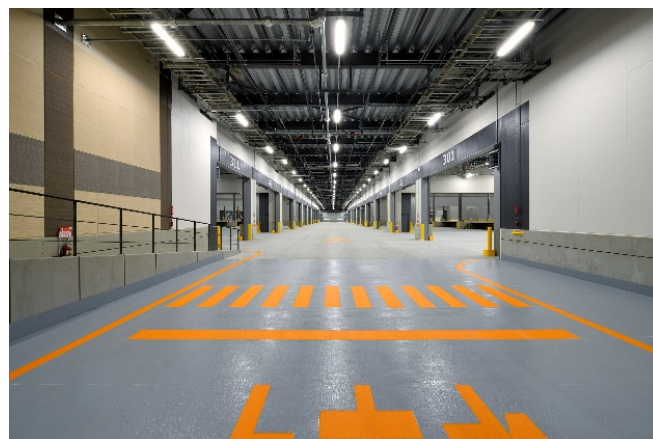
また、山形・岩手・八戸・水沢など東北各地に拠点を展開し、地域の医療環境に寄り添った供給体制を構築しています。東日本大震災の経験を踏まえ、災害時においても医療を止めない体制づくりに注力しており、近年では「物流2024年問題」への対応を含め、物流機能の強化と供給網の高度化を進めています。今回の「マルプロジック」プロジェクトもその一環として、東北全域の医療を支える基盤整備として位置付けています。

## ※2 拠点概要

当社は、東北エリアをカバーする物流体制として、北東北・南東北の2拠点を整備しています。

「マルプロジック北東北」（岩手県紫波郡矢巾町）は専有面積約4,263㎡、「マルプロジック南東北」（宮城県岩沼市）は約6,054㎡の規模を有し、いずれも高速道路へのアクセスに優れた立地に配置しています。

両拠点では医療材料を一度集約し各地域へ配送する仕組みを構築しており、東北全域をカバーする供給網を整えています。また、配送距離制限を見据えた輸送効率の向上や、災害時における供給継続性の確保を目的とした配置としています。



## ※3 運用開始後の取り組みと改善の経緯

当社が進める物流拠点の連携運用は、医療材料を安定的に供給するための新たな取り組みとして開始しました。特に岩手県など広域に医療機関が点在する地域では、必要な物資を適切なタイミングで届けるための物流のあり方が課題となっていました。

東日本大震災時には、行政から交通許可を取得し、燃料の優先供給を受けながら医療機関へ物資を届けるなど、通常とは異なる環境下で供給を継続してきた経験があります。この経験を踏まえ、災害時においても医療材料を途切れさせない体制の必要性を強く認識してきました。

こうした課題と経験を背景に、岩手（北東北）と宮城（南東北）の拠点を連携させ、医療材料を一度集約したうえで各地域へ配送する仕組みを構築しました。

一方で、運用開始当初は在庫配置や配送の流れ、拠点間の連携方法などに課題も見られました。そこで、実際に利用する医療機関からの意見も取り入れながら、現場での調整や改善を継続的に進めてきました。その結果、物流の流れは徐々に安定し、状況に応じた柔軟な供給対応が可能となっています。

また、災害や供給不安に備えた取り組みとして、医療用手袋やマスクなどの主要消耗品について約2か月分を備蓄。加えて、岩手県内で使用される透析医療材料についても同様に約2か月分の供給が可能な体制を整備しています。この備蓄体制は、2拠点整備の前はなかったため、「地域医療を止めない」大きな一歩だと考えています。